

建 築 学 系

I. 目的・特色

建築学（archi—ecture）は、技術（tekton）を総合（archi）する原意をもち、人類の歴史と共に古い学問です。したがってそれを専攻する建築学系は、第二次産業革命以降に設立された他の工学諸学系と異なり、単なる建築工学ではなく、学術・芸術・技術を総合する場であることを認識する必要があります。このような視座に立って改めて人類の歴史を考え、未来に如何なる文明・文化を創造すべきかを研究・教育することを最終の目標としています。

具体的には、建築史・都市史を基礎として、建築意匠・建築設計、および都市・地域・国土さらには地球環境に関する諸計画をおこない、それに必要とされる建築構造・建築材料・建築環境・建築設備・建築防災の各工学、さらには建築生産・建築管理・建築経営・文化財保存・歴史的環境保全・修景学等の多方面な諸学を扱います。

よって建築学系の学士課程に所属する学生諸君には、上記建築学全般を万遍なく学習すべく必修科目が用意されています。加えて専門化した内容の選択科目を設けており、学生各自の将来像の育成が考えられています。そして、より高度の専門家育成を目標とした大学院課程との連携も考慮されています。

II. 学 習

建築学系の授業科目は、必修科目と選択科目とに分けられています。

必修科目は、建築学全般にわたる基本的な事項を学習するもので、定められた全ての科目を履修しなければなりません。これらは、標準として、2年次、3年次に履修するよう準備されています。各科目は学問上の体系と学習の順序を考慮して配列されていますから、所定の順に従って、それぞれの学期に履修することを推奨します。

選択科目は、やや専門化した分野について学習するためのもので、主として3年次第3Q以降に履修することになっています。その科目の選択は各自の希望にもとづいて行い、さらに必要に応じて広く関連する他部門の科目も加えて、自主的に履修計画を作成することを推奨します。ただし、この場合一つの分野だけに極端にかたよることは好ましくありません。

また卒業後に一定の条件がそろると、建築士の国家試験を受けることができます。その試験科目は各自の専攻の如何によらず同一です。学習案内で示した学習の要件は、この点に関しても考慮されています。

III. 卒業後の進路

本学の卒業生の進路は概ね次の通りです。

官 公 庁	行政関係	営繕関係	研究機関	企画	その他
建築設計事務所					
建 設 会 社	施工関係	設計関係	研究機関	見積	部材生産関係
建築材料生産会社					
不動産開発管理会社					
一 般 会 社	営繕関係	その他			
教育研究機関	大学	教育関係	その他研究機関		
そ の 他					

